

かけはし

2019
Vol. 81
March



パッチワーク：繋がり
の芸術
トレヴィーゾ市と一宮市の出会い



災害が起きたとき、地域在住の外国人が落ち着いて身を守る行動ができるよう一宮市消防本部や一宮警察署の協力を得ながら「外国人防災教室」が開かれました。参加者は、ベトナム、フィリピン、中国、ブラジル、ネパール、タイ、インド、ミャンマー出身の41名とボランティアスタッフ39名。

災害が起きたとき、ニュースで流れる緊急情報はほとんどが日本語です。どんなことが起こっているのかを理解できるように、まず始めに「余震」「土砂災害」「暴風雨」「応急救護所」など災害に関する日本語を学習しました。そして、やさしい日本語に置き換えられた同じ意味の札をとる（例避難→逃げる）こと）カルタゲームをすることで楽しく災害用語の定着をはかりました。

その後、地震により建物火災が起きたことを想定して、揺れが収まるまで机の下に隠れ、指示に従って避難経路を通過して屋外に出る避難訓練、煙で前が見えない中を歩くスモークハウス体験、実際に消火器を使った消火訓練、保存食を使った食事体験をしました。

午後から行われたAEDの使い方講習では、「心臓が動かなければ死んでしまいます。あなたの応急処置でこの人を助けることができるかもしれませんよ。」という説明に参加者も真剣な表情で取り組んでいました。

災害が起こったときに、パニックにならないで助け合うことの大切さを実感した防災教室でした。（伏原）



『JICA研修員ホームステイ』体験記

我が家のホームステイ

11.17~11.18

今回は、11月17日と18日にJICA（独立行政法人国際協力機構）よりボラさん（カンボジア）とラダさん（ラオス）の2人を受け入れました。彼らは何でも食べてくれたので、食事は楽でした。今までに20数人のゲストを受け入れてきましたが、納豆を食べてくれたのは、彼らが初めてでした。連れて行った場所は、ツインアーチ138と犬山城です。

ホームステイを受け入れるには、ゲストもファミリーも不安を感じると思いますが、まずファミリーが快く迎える態度を見せれば、ゲストも安心すると思います。また、私が心掛けていることは、



何事も強制しない、宗教、政治問題を話題にしない、別れる時にサヨウナラを言わないことです。

心配なのは言葉と食事ですが、留学生の場合は、日本語が話せますので言葉の問題はありません。食事は、テレビでよくテーブルの上いっぱい料理を出している場面を見かけますが、我が家ではそういうことはしません。我が家では、初日は必ず「お好み焼き」を作りながらコミュニケーションをとります。また、何処かへ連れて行くのも近場で充分です。

別れた後に連絡を取り合えるようにするのも楽しみの一つです。ホームステイに興味のある方は、是非受け入れてみてはどうか？楽しいですよ!!

（ゴツちゃん）



◆◆◆ 異文化体験～この国の人って～ ◆◆◆

一宮市国際理解教育[※]ファシリテーター（ファシ138）ワークショップin一宮市立三条小学校 12.18



2017年に発足し、研修を重ねてきた一宮市国際交流協会のボランティアグループ「ファシ138」が、初めて小学校でワークショップを行いました。

授業は3、4時間目を使って行われ、前半は普段食べている料理をあげてもらい、それらがどこの国と関係があるか、どうしてその料理が食べられているかを考え、食べ方の違いなどから世界には食文化の違いがあることを学びました。

後半では、クラスを文化の違う二つの国の人に分けて、お互いの国の文化・習慣を知らないまま出会うという疑似体験をしました。そして

自分たちと違う文化の人と接して感じた気持ちを発表しました。

「怖かった」「冷たいと思った」などの声がたくさんあがり、そこからお互いの文化を理解することの大切さを学びました。

ファシリテーターの明るい声掛けに、子供たちも活発に発言し、その活動から、異なる文化の人たちと触れ合う時に大切なことを、自分たちで自然に見つけたようです。

一宮市国際交流協会ボランティア「ファシ138」では、一緒に活動してくれる人を募集しています。

少しでも「ファシ138」に興味のある方は、ぜひ一度協会までご連絡ください。

（日野）



※ファシリテーター：会議やワークショップといった話し合いやグループワークがスムーズに進行するように、支援や補助をする人（進行役）のこと。

国際交流授業

二つの名を持つ国

※ ニュージーランドとアオテアロア

※マオリ語で白く長い雲のたなびく地

愛知県立一宮西高等学校 1.18

「起立」「礼」の合図でカサンドラさん自身の経歴とニュージーランド（NZ）の話が始まりました。彼女はフィリピンに生まれ、シンガポール、バーレーン、NZ、日本と色々な国に住み、学びそしてNZの国籍を取得し、現在一宮市の国際交流員として働いています。

今回は県立一宮西高校に昨年できた、国際理解コース選択生徒が参加しました。

NZは飛行機で日本から11時間かかり、時差4時間の南半球に位置する自然豊かな国です。

一宮市へ、NZからの交流員も度々来ているのにあまり知られていないのも事実です。

ニュージーランド人はヨーロッパ系7割以上で、マオリ系、アジア系、パシフィック系など多民族で多文化です。

多文化のメリット・デメリットについて、

生徒に意見を求めた時、「色々な文化に触れられるけれど、対立も生まれるのでは？」などの意見も出ていました。講師は、NZのクイズや、日本との違いを丁寧に話してくれました。

最後にカサンドラさんが生徒の皆さんに「NZは若い国です。機会があればぜひ留学を勧めます。きっと自分の成長になるでしょう」とエールを送っていました。（みかん）



おもてなしモーニングCafé イタリア野菜たっぷりモーニング

i-ビル カフェレストランICHIMO 12.8



寒波でぐっと冷え込んだ12月の朝、i-ビルコンコースのエスカレーター前に並んでいる一団がありました。熱心なモーニング好きな方々です。お目当ては、一宮市国際交流協会のクッキング班が企画し調理した「おもてなしモーニング」を食べることです。一番乗りは開店2時間前から並んでいる名古屋の男性。二番目は1.5時間前から並ぶ一宮の女性。三番目は名古屋からの女性二人組が並んでいました。開店前には行列ができていました。



9時に開店すると店内はすぐに満席となり、まだ店外には順番を待つ列がありました。注文してしばらくすると、イタリア国旗が立てられたイタリアンパセリ入りチャパタのサンドに、ピーツを練りこんだピンク色のブレッド、浮野卵たっぷりのフリッタータ、ガトーショコラとカップコーヒーのモーニングセットが運ばれてきました。色どりもきれいでたのしく、早く食べ



たくなりました。私の隣の席に座っておられた女性は、「ピンク色のが面白い味で美味しかった。」名古屋からの男性は、「フランスパンの硬さがあって、噛むと味がいいね。」一宮の女性は「ボリュームがあって、いつものモーニングと違って美味しかった。」等の感想が聞かれました。

今日のモーニングイベントに、地元はもちろん、名古屋、羽島から、そして遠くは伊勢や中津川、安城から来たという熱いモーニングファンには本当に驚かされました。店内ではコーヒーの香りが漂い、来店者のみなさんは、イタリア野菜たっぷり一宮モーニングを胃袋から満喫していました。(ドリアン)



友好都市「トレビーズ市」パッチワーク展 出展作品事前展示会

一宮市役所本庁舎 10.15~10.19

11月17日から友好都市トレビーズで開催されるパッチワーク展に出展予定作品の事前展示会が、市役所14階市民ギャラリーで開催されました。

展示された作品は、竹内逸都子^{いづこ}さんを代表者とする布戯絵^{ふぎえ}キルターズの15名の仲間の作品15点と、永岡万紗子^{まなこ}さんが仲間の作った19のパーツをひとつにまとめたもの1点の計16点で、日本の季節や行事あるいは風景をモチーフにした大変美しい力作ぞろいでした。

トレビーズ出身の国際交流員アレッサンドラさんが現場にいたので、「どれが一番良いですか。」と尋ねたところ「どれも1番だと思う。」という答えが返ってきました。それでは、「どれがいちばん好きですか。」と聞くと、「これかな。」と言って指さしたのは、なんと唯一の男性出展者、藤田^{ひろし}熙さんの作品でした。

出展した皆さんがイタリアのトレビーズまで作品と一緒にいけると良かったのですが、今回は作品だけになりました。次回はトレビーズの作品たちが一宮に来てパッチワークの交流が両友好都市の「かけはし」になると良いですね。

(荒楠)



トレビーズ市パッチワーク展での展示のようす

日本語ひろばびさい お楽しみ会

三条つどの里 12.16

ボランティア29人とゲスト4カ国44人が日本語教室の立場を離れて、共に楽しむ手作りの会を開催。ジュースを飲み、お菓子とリンゴを食べながら笑いに満ちていました。



まずは手品で小手調べ、何も無いところから沢山の花が飛び出し、破れた新聞がもとにもどる手品を見せられました。その後恒例となるゲストによる日本語スピーチで、日頃の勉強の成果を披露しました。

ペルーのサラさんは、どうして日本に来たかの理由と、ペルー人の踊り・音楽が好き、パーティーも大好きな国民性を紹介しました。そして、スペイン語のあいさつ「オーラ」で締めくくりました。

ベトナムのフンさんは、ベトナムと日本の約束した時間の違い。また、日本は何かあれば誰にでも「すみません」「ありがとう」を言うが、

ベトナムでは親しい間でも言いません。日本人の思いやりの心は車の小さなクラクションの音に表れています。

インドネシアのジギトさんは、紙を見ながら、日本での日常生活や好きな焼き鳥の話をした後、大切なものは時間で、命と同じと言い切り。「時間は守って下さい。」と日本語を使いこなしていました。



お楽しみ会は進み、サルも木から落ちるの④のカードを取るカルタ取りとフルーツバスケットの椅子取りゲームで汗を流しました。

最後は、ボランティアが持ち寄った品、買って来た日用品を景品にしたビンゴ大会を楽しみ、袋いっぱいの景品を手に入れ、皆が1枚の写真に収まり1年間を締めくくりました。（佐野）

国際交流ふれあい運動会 みんなでつなごう！ソフトバレーボール

一宮市総合体育館 1.20

国際交流協会の冬のスポーツイベントといえば「国際交流ふれあい運動会」として行われるソフトバレーボール大会。

今回は総勢124人の参加で熱い戦いが繰り広げられました。



ところでソフトバレーボールってご存知ですか？いわゆるバレーボールとルールはほとんど同じですが、競技で使うボールはすごく柔らかい感触のものを使うんですよ。

国際交流協会のイベントではよく使うのですが、初めての人にとっては戸惑うことも多かったようです。

地域在住の外国人の方に加え、市内の小学生

やボランティアスタッフで構成された動物の名前をチーム名とした全18組のチームで試合が始まりました。

ボールがフワフワしているにも拘らず扱いに慣れてくる頃には、見応えのある好プレー・珍プレーいっぱいになりました。

予選リーグを済ませた後、次は勝敗数ごとにグループ分けをして、順位を決める試合に移ります。順位を意識した試合になると、プレーヤーも真剣さが違ってきますね。

結果はウルブズさんチームが優勝！楽しくゲームを進めたチームワークの勝利と言えるでしょう。皆さんいい顔していました（you都市）



ランチにゲームに猿回し！ 平成30年度 ボランティア交流会

向山公民館 2.3

年度末の開催が恒例となっている、一宮市国際交流協会のボランティア交流会。日本人ボランティアをはじめ、中国、インド、フィリピン、ベトナムなど国籍も多様な総勢96名（うち外国人23名）が参加し、国や言葉を越えて楽しめるゲームや余興で盛り上がりました。

まずは、ランチから！

交流会は、昼食を囲んでスタートしました。今年のメニューは、油を使わないヘルシーな「炊き込みピラフ」、体が温まる「ロールキャベツ」、当日が節分の日ということできなこ（大豆）を使った「なめらか牛乳きなこプリン」の3品です。クッキング班のみなさんが朝9時から腕をふるい、開始前からとてもいい匂い。



参加した外国人の中には、直前まで同じ公民館で行われていた日本語教室「日本語ひろば」の参加者も多くいました。それでも大勢が集まる交流会では面識のない人のほうが多く、それは日本人ボランティアにとっても同じこと。普段なかなか話をする機会がない人同士が、それぞれ海外や日本との関わりや、自分の国のこと、言葉などを教え合ったりしてにぎやかに過ごす時間はあっという間で、とても貴重な時間になりました。

共通点を探せ！ゲームタイム

ランチのあとは、ファシ138の企画によるゲームタイム。テーマは「聞かないと分からない共通点を見つけよう」。制限時間5分で話し合い、外見だけでは分からない“共通点”をより多く見つけられたチームの勝ちというルールです。景品が出るとのアナウンスもあり、この日一番盛り上がったシーンだったのでは？結果、最多チームは25項目が一致！進行役の「各グループ、ユニークだった共通点は？」という質問には、「玉せんを食

べたことがある」というご当地ならではのものから、「好きな人がいる」と会場をキュンとさせる回答までさまざま。最後は「普段から、初めて会う人ともこうして共通点を見つけて仲良くなってほしい」というゲームに込められた思いの種明かしで締めくくられました。



猿回しでフィナーレ！

そして、交流会の最後を飾ったのは「鈴鹿の猿回し『シゲ&モンタ』」の公演です。ベテラン猿回し師のシゲさんと、かわいいおとぼけ猿モンタくんのコンビが披露するコントを交えた芸に、「おお〜っ」と歓声が沸き起こります。前列で見ていた子どもたちはボケにつっこんだり、目をキラキラさせて笑ったり。言葉が分からなくても、動きやしぐさで楽しめる余興は会場を一つにしてくれたようでした。



夕方から雨予報だったこともあってか、モンタくんととの記念撮影が終わると予定を繰り上げて、交流会は終了しました。幼児からシニアまで、年齢も、国籍も違う人たちが集まる年に一度のイベントで、お互いへの理解がまた少し深まったでしょうか。来年度も海外と日本、人と人をつなぐ草の根レベルの活動を、コツコツと続けて行きましょう。（たけうち）



おとなりさん



2018年4月から愛知県立木曾川高等学校に留学していたタニャトーン・ラシャダポーソクンさん（通称ファーちゃん）は、タイのバンコク出身の16才、やさしくて、微笑みの中に芯の強さを感じさせる女の子です。留学前に旅行好きな家族と日本へ何度も訪れていて、東京、京都、大阪、北海道、鳥取のコナンミュージアム（青山剛昌ふるさと館）などへも行ったことがあります。一宮市は初めてだそうです。

写真や、映像が好きで、いつもカメラを持ち歩いています。ショートムービーを作ったり、動画をYouTubeに投稿したりしていて、将来は、映画に関わる仕事に就きたいそうです。

留学前に母国で日本人から日本語を勉強してきたファーちゃんは、勉強家で、帰国前に日本語能力試験のN3に挑戦しました。ひらがなカタカナの読み書き、聞くこと、話すことは、かなり上手になりましたが、試験対策のため、苦手な漢字、敬語や丁寧語も頑張りました。

帰国したファーちゃんから、“合格しました”という嬉しい報告が届きました。益々日本語の勉強に力を入れて、上級の試験にも挑戦していくことを期待しています。ファーちゃんならきっとできると思います。

ファーちゃんと話していて驚いたことは、タイのパクチー（別名：コリアンダー）は、日本のパセリのように彩りのために添えられているものなので、タイ人は食べないということ。なので、日本のタイ料理は好きじゃないんですって。

今度、日本好きな家族と一緒に日本へ来る時は、得意の日本語を使って案内できますね。

また日本で、一宮で会いましょう、待ってます。
(ゆご)

iia information

イタリア語でイタリア文化！

友好都市トレビエゾ出身の国際交流員がイタリア語でイタリア・トレビエゾの文化や歴史を教えます！

日時：5月10日～6月7日の毎週金曜日
午後2時～4時（全5回）

会場：市役所本庁舎11階会議室

講師：国際交流員グリッロ・アレッサンドラ

受講料：2,000円（教材費を含む）

定員：24名（18歳以上の方）

申込み：4/19（金）までにiia事務局まで（抽選）

その他：一昨年・昨年度のつづき講座のため、以前受講された方にオススメです。

国際理解教育ファシリテーター養成講座

国際理解ワークショップを体験し、ワークショップの進行役（ファシリテーター）の基礎を学びます。コミュニケーションや子育てにも役立ちます！

日時：5月13日、20日、27日（月）、6月5日、12日、19日（水）、
6月24日（月）（全7回）

午前10時～午後3時（昼休憩1時間）

会場：市役所本庁舎11階会議室

講師：あいち国際理解教育ステーション（A I S）

受講料：無料

定員：30名（18歳以上の方）

申込み：5/7（火）までにiia事務局まで（先着）

*協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。

また、一宮市の国際交流の中心となって活躍いただく親善ボランティアも随時募集しています。詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

iia Facebookページ

イベントのお知らせや、外国人のみなさんに役立つ情報を多言語で発信しています。Multilingual posts about event notices and helpful information for foreign residents.





中学生、夏の冒険！ ～ネパールの施設での1か月～

ナマステ！（こんにちは！）

中学2年生の林 真大（まひろ）です。好奇心いっぱいの中学生です。その僕は、6月の末から7月の末まで、学校を休んでネパールの施設でのボランティアを体験してきました。僕にとってこの旅は初めてなことがたくさんあふれていました。「何で学校を休んでまでしてそんなところへ行きたいの？」と思う人が多いと思いますが、人生を通して、ネパールに、一カ月も使って中学生で行けるチャンスなんてまずまず巡って来ません。行かない理由なんてない！理由を探したがるのは、大人の悪いところだと僕は思います。

施設は、お父さんの友人、日本人ですが、その人が設立した孤児院です。直接お願いして実現したのだから、全くのプライベートな旅でした。

この旅には大変なことがたくさんありました。飛行機にまだ数回しか乗ったことがない、英語もろくに話せない僕が一人で税関、乗り換え、ビザを取っての旅ですからパニックにもなります。ネパールに着いて驚いたことがたくさんありました。あんな小さな空港に国際線があること自体日本では信じられません。名古屋駅より狭くて小さくて、その上汚いのです。人も全然いません。そして税関がなぜか、男女で別れています。

車で街に出ると何より目に付くのはバイクとバスの多さです。バスのドアは外れているものが多く、また、はしごが付いていて屋根の上に座っている人もたくさんいます。さらに、河川敷を見れば今にでも決壊しそうな川のほとりには、終わりそうにないスラム街。日本は平和すぎるのだと改めて思いました。

施設では、何の紹介もなく、1日に自分の名前を50回以上言うという前代未聞の経験をして、初日から過ごしました。

時間帯ごとにしなくてはならないことが明確に書かれており、それに沿ってみんな生活をしていました。初めに小さい子たちが僕に興味を持ってくれてたくさん話しかけてくれたのは、分からないことだらけの僕にとっては、とてもありがたく過ごしやすかったです。子ども達と一緒に映画を見たり、サッカーをしたり、ワールドカップを見たり、お手伝いをしたりいろんなことをしました。

えっ？言葉はどうだったかって？ゼーゼーんが英語。おかげさまで英語が少し話せるようになりました。向こうの学校は、チベット語とネパール語の授業

以外は全て英語で行っています。日本人も英語を使う時間を生活に組み入れることで、楽に多くの人が英語を話せるようになるのではないかと思います。その他にもいろんな経験や知識、文化を知ることができて、学校を休んでまでしてネパールまで行ったこと、本当に良かったと思います。皆さんも旅に出てみては、いかがですか？ダンナビャー（ありがとう）

Himalayan Children's Foundation Kailash Home Summer Daily Routine- 2018	
5:45 am	Rising Bell
5:45 am -- 6:15 am	Wash up / Morning Duty
6:15 am -- 7:45 am	Self-Study
7:45 am -- 7:55 am	Morning Assembly
8:00 am -- 8:20 am	Breakfast
8:20 am -- 8:25 am	Bus Departure
	Bus Arrival
3:50 pm	Dressing Hour
3:50 pm -- 4:15 pm	Leisure
4:15 pm -- 5:30 pm	Self-Study
5:30 pm -- 7:00 pm	Dinner
7:00 pm -- 7:30 pm	Break
7:30 pm -- 7:45 pm	Self-study
7:45 pm -- 9:00pm	Wash up
9:00pm -- 9:25pm	Light Off
9:25pm	

編集後記

昨秋から、iiaのボランティアをはじめました。1歳の子連れで、最初はおそるおそるミーティングに行きましたが、心配もなんのその。おやつを食べうろちょろする子どももろとも、温かく受け入れてくださいました。子どもと参加することで、多少なりとも国際感覚が身につけば、という淡～い期待もありつつ、何より私自身が、世界にもっと何かできないかと模索する日々です。同じように小さいお子さんをお持ちの方も、できることありますよ！一緒に参加してくださいとうれしいです。（たけうち）

発行 一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市生涯学習課内)

ご意見・ご感想お待ちしております 【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】

当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください

【WEB:<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/> Facebook:<https://www.facebook.com/iia138>】

*この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。

みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。